



令和5年11月21日

岩倉市議会

議長 関戸郁文様

会派名 創政会

代表者名 須藤智子

第85回全国都市問題会議「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」
報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和5年10月12（木）～13日（金）
- 2 研修先 八戸市公会堂（青森県八戸市）
- 3 出席人数及び氏名

4名	梅村 均	井上真砂美
	伊藤隆信	片岡健一郎

- 4 復命事項

別紙のとおり

【開催日程】令和 5（2023）年 10 月 12 日（木）・13 日（金）

【場 所】八戸市公会堂（青森県八戸市）

【参加者】伊藤隆信 梅村均 片岡健一郎 井上真砂美

【主な内容】

議題：文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

基調講演 「アートの役割って何だろう？」

講師：東京藝術大学長/アーティスト 日比野克彦氏

- ・ 出会いと学びのアートファーム＝八戸市立図書館
ジャイアントルームあり。市民交流の場が特徴としてある。
この空間を作った理由は、I COMの博物館・美術館の定義を更新し、包摂的、多
様性、持続可能性を育むとした。また、コミュニケーションをはかり多様な意見
を取り入れていく拠点としてつくった。
- （自己紹介）
- ・ 岐阜市出身
- ・ 「こよみのよぶね」という活動をしてきた。（長良川）1 から 1 2 の船を作ることに
より人が集まり会話が生まれる。自分の故郷への想い、今年一年の振り返りなど体
験でき、継続している活動である。
- ・ 水戸市の水戸芸術館でも取組みがある。
- ・ HIBINO カップ：ボールとユニフォームを手作りしてサッカーに参加するもの。ミ
ニサッカー。SDGS の 1 7 の項目のうち一つをテーマにして、サッカーゴールを
作るなど実施。2 0 0 5 年から毎年実施している。
- ・ 朝顔プロジェクト：テラスにウッドデッキをつくる。ペイントもした。全国 2 6 地
域にまで広がった。それぞれできるごとに花が咲いていくようなマークとなってい
く。金沢市でも。各地域から苗が集まり、「地域と地域がつながる」「人と人がつな
がる」と呼びかけて参加してもらった。はじめの頃、2 0 0 0 本のロープを使って朝
顔をやった。中学生も参加した。姫路市園教寺の事例もあり。朝顔は一年草で地域
によって育ち方、速度など違う。種がとれる。朝顔にその土地らしさが現れる。市
立美術館でも実施。1 0 0 校の小学校まで展開した。
- ・ 瀬戸内海での船のイベント：香川県三豊市。その土地の環境を活かしたアート活動
を行っている。煉瓦の物語をつくる。海に沈んでいる煉瓦を創造する。何に使うの
か、使われるのかなど。人間にスイッチを入れる力がアートにはある。
- ・ 海底探査美術館：海の中から何か引き上げてこれは何だろうとみんなで考える。見

えない海の中を、船の上から想像する。

- ・熊本市現代美術館：中心街にある。日常とつながりやすい。買い物していたらいつの間にか入っていった。町の中と繋がっていこうとして活動している。
マッチフラッグプロジェクトをW杯カタール大会に向けて実施。通りすがりの人が参加したりも。つまり、商店街、その通りが美術館になる。熊本市役所職員と現代美術館との連携活動もあり。まちづくりセンターの職員研修にもなっている。
- ・ご用聞きのプロジェクトはじめた。冊子あり。街の課題を知っているのは市役所の人たちならば、市役所に話を聞きにいこう。→アートで社会課題解決に取り組む。例) 交通局にきく：運転手不足のこと、市民の車内での会話からきこえてくる。
- ・熊本市第8次総合計画を計画中だが、これを美術館で展覧会として見せていけないか検討中。美術館で発信していく。

(大学での活動)

- ・アートの協奏。地方自治体との連携をかかげている。個人での活動を大学の中でもやっていきたいと提案した。
- ・SDGS×アート展：文化芸術は⑰の課題すべてにつながっている。
- ・継続していくには心が動かないといけない。その心を動かすのがアートにできる。17の的のもとには芸術がある。
- ・「福祉と芸術」：東京芸大で社会人と学生が学ぶ。プログラム実践演習あり。
- ・センサーリールームプロジェクト：聞いていて過度に敏感な障害者等のための部屋をつくる。国立競技場の中に実験的につくった。サッカー協会と芸大との連携事業。DOORの事業が行われている。(履修証プログラム)
- ・共創拠点は39団体。一緒に研究開発している。
- ・社会的処方：薬ではなく人とのつながりで処方する。ハピネスの提供
そのエビデンスをつくっていこうとしている。医療、福祉、日常生活の中心に文化的処方があるイメージ。意識して展開していく。人と人とのつながり、心の状態が大切。心の産業を産み出し、継続的にできるようにしていきたい。
- ・岐阜県のプロジェクト事例：国民文化祭
42市町村と文化事業をしていくもの。文化リンクワーカーを育成し、その人が文化を提供する。地元のアーティストの支援を借りて行う。ワーカーの育成は芸大が担う。岐阜大学医学部で、高山市民を対象にデータを取り、検証していく。
- ・海外事例：先進国はイングランド。日本より10年早い。
マンチェスター市立美術館：アートを機能させ健康格差をなくす。美術館の中での取り組み。美術館で対話。移民など様々な人がいて集まる。アーティストを呼んで、社会課題を抱え得ている人を美術館に招いて、インタビューしたり、話したりする。

そのリサーチの様子をドキュメンタリーにしていく。そんな展覧会をしていく。オンラインでも公開する。

- ・美術館に行くことによって癒される。社会的処方プログラムの作成。それぞれのコレクションの話をしたりする。
- ・リバプール国立美術館では、認知症の社会的対処を実施。キャロルロジャース、「思い出を語っていこう。」「美術館のものを通して話をしていこう。」
来れない人のためオンラインでも提供している。
- ・トラックに組み立て式のミュージアムをつくり、認知症のスピードを遅らせるような取組みも。=移動式ミュージアム。
- ・ヘルスセンターとグリーン・ギャラリー
美術館が福祉施設に、福祉施設が文化施設になるというコラボ
- * 検証結果ダウンロードできる。
- ・いかに文化が大事であるか。文化的処方をすることにより、一人の患者にかかるお金が減る。アートは生きる力、ARTとHEART→アートはハートの中にあるART

主報告 「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」

報告者：青森県八戸市長 熊谷雄一氏

- ・八戸市：人口 22.3 万人
- ・中心市街地活性化という地域課題がある。商業機能の低下が見られた。
- ・新たな交流と創造の拠点として「はっち」をオープン。80万人の来場（コロナ禍前）、2,700 件の催しを行う。
- ・子育て支援としてコソダテハッチもあり。
- ・はっちのアートプロジェクト：空き店舗を活用した。あまりお酒を飲まない人にも利用してもらえるように工夫。→横町オンリーシアターを開催。
- ・南郷アートプロジェクト、八戸工場大学
- ・八戸ブックセンター：「本の街」八戸の拠点施設に。本を書く、本を読む、本を・・・。
- ・八戸まちなか広場＝マチニワの開設。屋根付きの広場である。高校生がいたるところに座っていたり、ストリートピアノの設置もある。子供が水浴びをしている光景も見られる場所。地酒、地ビールなどイベント開催等にも利用している。
3社以上が合同で行うイベント企画には補助をした。（無料貸し出し？）
- ・八戸市美術館：学びの循環。県内5館連携プロジェクトあり。県外からの誘客のため実施。共通テーマを設定し開催。
- ・公共交通：八戸中心市街ターミナルがある。

・公共の文化づくりは、民間開発への呼び水になる。

(スポーツ)

- ・八戸市はスケートが盛んである。スケート競技会を開催している。=氷の都八戸。
- ・スケートリンクもある。市の直営で長根屋内スケート場をオープンした。リンク内側の敷地では、サッカーなどもできる施設になっている。観客数9,000人。音楽フェスの誘致など利活用を図っている。
- ・避難者の収容、救援物資集積場、防災倉庫など・・・4つの機能もある。
- ・市民向け解放あり64日間。学校体育への解放もあり。
- ・競技者の合宿も7月がピークであるが、延べ7,700人泊で地域経済効果もあった。
- ・FLAT HACHINOHE:半日で、バスケットに変換できるスケートリンク、大会会場利用、小学生への授業などで利用している。
- ・氷都八戸パワーアッププロジェクト:スティックなどへの道具への補助
- ・市民を巻き込んだ民間ベースがよい。ほかプロスポーツ事業もあり。

(文化の力、スポーツの力)

- ・文化・スポーツ基本法
- ・八戸ブックセンター:本の街八戸を目指す。売れ筋本ではないが、その分野の名著や、読んでほしい本を置く。ギャラリー展、作家のトークイベント、地元の民間書店とのネットワーク事業あり。
- ・もうすぐ7年目を迎える。本を介した人とのつながりを生む
- ・プロスポーツチームが地域に貢献:子供たちへの指導、清掃活動などあり
- ・アートファーマープロジェクト「建築ツアーガイド」
- ・スケートによる教えと学びの循環:70歳の方がスケートの基礎を子供たちに教える取組みあり。
- ・関心やテーマに基づくコミュニティと当事者を増やすことを心掛ける。

(まとめ)

- ・八戸市スポーツ推進計画の改定、八戸大型公共施設見える化シートの取り組み
- ・専門性を高める人的支援、投資が必要であると考え。受付など、地域の雇用創出にもつながる。
- ・美術館にジャイアントルーム:様々なイベント、事業あり。ジャイアント食堂など
- ・街歩き:はちまちLINE運用を開始。=まちなかwifi。クーポンの発行、AIカメラによる解析なども。
- ・開かれたパブリックな場をつくることで都市の多様な価値をとりもどしたい。そこに行きたくなることから出会いと交流が生まれる
- ・文化・スポーツがもつ三つの・・・。ヨルニワ、マエニワ、・・・ニワ等オープンスペ

ースの活用事例あり。

一般報告 「まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる」

報告者：文化事業ディレクター、演出家 吉川由美氏

- ・文化政策といえば、かつては文化ホール、郷土芸能、美術館などであった。今はひとりひとりのいきる力になるようにと捉えている。
- ・「はっち」について：
中心街が歩いている人少ない。空きビル多いといった状況だった。
ここには、物作りスタジオや食のスタジオも入っている。
- ・地域の資源を大事に思いながら新しい魅力を作り出すことを心掛ける。
地域の資源を活かす、市民と共につくりあげる、まちなかに回遊してもらう
- ・市民は、はじめは関心がなく、アートの説明も難しくまた、何かまた箱物を創るのかという感じであったが、八戸の地域資源を再発見、フラットな交流と対話、中心街に関心を持ってもらうというこの3つを柱に進めた。
- ・88組取材しエッセイを発表した。同じ街を生活している他者を取材。街への想いなど。それをもとに作品をつくる。展示する。を行った。
- ・市民が主役。住民の営みの中に宝物がある。これが「はっち」→みんなの関心空間になった。
- ・「酔っぱらいに愛を」：ミニシアターの開催。飲み屋のカウンターに、バレエダンサーやアーティストがでてくる。パフォーマンスしてくれる。最後は酔っぱらって階段おちのシーンもあり。
- ・3人一組で動かすロボットの大会を開催した（ハッチの広場）
- ・はっち魚ラボ：魚をおいしく食べる八戸文化の探索。
- ・デコトラと山車が似ている。デコトラのような衣装をつくりそれを着てダンス。
- ・隠れている街に貢献している人にフォーカス：トーク会場では、トラックの運転手が16時間かけて築地に魚を運んだ話あり。それを聞き、この人がまちに貢献している。水産都市八戸になることできたとみんな気づかされた。
- ・日々の暮らし、生活の中にあるソフトパワーをブースとして感動や喜びの場とする。
- ・今、どのような文化政策が必要とされているのか：DASHIJINプロジェクトや八戸三社祭あり。27の山車を毎年更新。これらは、3社の山車に付く。
→みんなでつくる。人間形成の場にもなる。年をとっても高校生に怒られる。コミュニティーの一員として社会の一員として役に立ってると思える場。学校教育ではできない貴重な場である。
- ・地域で、作る人を育てている。

- ・また、見えざる人の存在も：おむすび差し入れ、炊き出し、ご祝儀はずむ人、子供たちの送り迎えなどたくさんある。→評価されていないことに気づく
- ・祭：する人、見る人、支える人 この三つで祭りが成り立っている。
- ・観光振興目的でやると祭りが商品になり支える人が疲弊してしまう。経済合理性とは違う何かで成り立っているのではないか。多様性を認め合い、つながりが紡ぎあっていく場になっている。こういう場の価値を市民が体験し感動することがないと衰えてしまう。
- ・社会の分子ではなく、分母としての文化政策を考える。地域の大切なものを失わないように。
- ・南三陸町：震災で漁業権をいっさい手放したが、街が復活した。
→自分勝手にできない。人と人が接する場所があった。利他の精神を育むという文化があったからできた。
- ・文化は地域経済をブースとするパワーもっている。リテラシー、モラルもいわれる社会であるが、だからこそ必要なものである。

一般報告

報告者：長野県東御市長 花岡利夫氏

- ・ワイン特区を取得した。H20年11月、玉村豊男氏、標高800m
- ・市長就任してから2ヶ月後に申請した。
- ・現在ワイナリー数は14から17へ。現在3つ計画中もあり。
- ・千曲川ワインバレーの中心（適地適作）
- ・高地トレーニングエリアの整備へ：標高差を活用して、地域の特長を生かした地域づくりを考えた。東京オリンピックが決まれば、必要になるのではないかと考えた。
- ・標高1500～2000mの準高地：8割ぐらいの空気の薄さでがんばろうとする意欲がわく高さのようだ（水泳選手）
- ・冬も車で乗り付けられるというのが評価された。
- ・国や県に相談したが駄目だったので、市が自前でプールを整備することにした。説明会を開催したら圧倒的に反対の人が集まった。そのため寄付を集めて、一般会計は使わないとした。運営費赤字になったら体育館にするとも説明した。高地トレーニングのメッカをつくりたい思いがあった。
- ・オリンピックに間に会わないと価値がないと思い、見切り発車的に始めた。
3レーンの400mトラックから出発。（3レーンだと400mトラックとはいわないそうだ）練習用のトラックとした。続いてプールをつくった。
400mトラックは健康増進ということで地方創生の交付金を使った。

プール：50mの8レーン。当初は10レーンだったが練習には8レーンで大丈夫といわれそうした。深さも当初より浅くできた。2.5m

- ・ JOCから施設の看板を送ってもらった。
- ・ オリンピックの1年前までに完成させたく、寄付を集めたが5億5千万。建設費は13億。合宿所もいれると約8億5千万の起債となり、議会も紛糾した。そうした中、日本のことになることをやって東御市のためになるという考えを理解いただき企業が寄付してくれた。(ただ、寄付するが名前を出さないでといわれた。このかねあるなら東御市に寄付してといわれるから)。5年で完済できた。

(スポーツ会館として必要な5つのキーワード)

1 練習施設、2 休憩・宿泊場所、3 アスリートを支える食事(練習施設の近くに必要。)、4 プライバシー・セキュリティー、5 医科学的サポート：筋肉肥大化2割アップ。やりすぎると無駄な筋肉がつく。疲れている。酸素吸入のアドバイスなど

- ・ スポンサーを募った。ニッスイ=同じ名称だったから頼んだ日本水産
- ・ プールは練習用に特化。観客席いらない。監視員も泳ぐ人はトップクラスだからいらない。
- ・ ネーミングライツも導入。

(昨年実績)

- ・ 年間5000泊：宿舎は取り合いだが、陸上と水泳でトップシーズンがずれているのでよかった。温暖化で涼しいところで練習したいというニーズもでてきた。
- ・ シンクタンクに調査依頼したところ、市民への健康への還元につながってきている。
- ・ トライアスロンも使用したいという話も出てきた。一般のトライアスロンの人も利用している。自転車も使うことから、自転車競技の人も来るようになった。スケート選手は夏場に自転車を使うのでその需要もできた。
- ・ イベントの開催：1000mを自転車で登る大会。参加費有料
標高差を克服するイベントがでてきた。
- ・ 課題としては、スポーツツーリズムとワインツーリズムが盛んになっている中でどう地域が潤うしくみができるか。市民の健康や、訪れる価値がある地域になれるか検討している。訪れる人の健康も考えていきたい。

一般報告 「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」

報告者：(株)鹿島アントラーズFC取締役副社長 鈴木秀樹氏

- ・ 自治体側からみたプロスポーツの活用をお話ししたい。使い倒してプロスポーツは地域の豊かさをもたらすものと考えている。
- ・ Jリーグはオープンリーグ。世界へ行くにはこの方式がよい。

- ・アメリカはほとんどクローズドリーグ。バレーボールはクローズ
- ・30キロ圏内に200万人いないと成り立たない。一プロ野球の例
サッカーも100万人はいないと成り立たない。
- ・鹿島は当時4万人の人口であった。
- ・スポーツクラブとしては、とにかく勝つことに特化してやってきた。
それが地域の豊かさにつながるとして。
- ・地域との関係でいくとB to Bの会社よりもB to C会社の方が運営に向いていた。
住金からメルカリへ。
- ・50年後、長期を見据えたとき、誰が経営者になっても運営できている状況をつくりたいことからロードマップをつくった。自分たちの自己満足だけでやるのではなく、地域と関係を持ってやっていくことが見えてきた。
- ・ホームタウンとフレンドリータウンをつくっていきたいとした。→合計17自治体との公的連携、人材交流による行政連携
(公的連携、行政連携の事例)
- ・民間研修ということでアントラーズへ職員が出向している。1年単位で。
- ・メールもない。ビジネスチャットで仕事をしている。
- ・総合計画づくりのメンバーに入っている。
- ・ふるさと納税型クラウドファンディングで様々な市と行う。(アントラーズは地域の資源、山や川と同じで単なる一企業ではない。)
- ・ヘルスケア事業：スポーツドクターがいるがドクターを頼むと高額である。来てもらっていたが、病院をつくってドクターの雇用先をつくった。地域の医療として、スポーツドクターが診てくれることにもなる。診察券を4万枚発行している。
- ・フィットネス事業：介護予防事業にも。アントラーズが雇用の場として付くって、地域へ還元している。
- ・プログラミング教室：スポンサーの力を借りて実施。
- ・食育キャラバン：アントラーズの選手は何を食べているのか。→子供たちが真剣に考えてくれる。考えたことに子どもたちは取り組む
- ・選手が登場するPR動画制作、英語の勉強にも
- ・キャリアデザイン教室：ビジネスマンづくり、経済感覚を子どものうちから興味をもってもらう活動
- ・学校教員向け講話：社会経済、民間企業の働き方など。教材づくりも
- ・クラブを活用した教育連携：スタジアム遠足、クラブハウス見学→スタジアムに来る習慣にもつながる。
- ・卒業・入学お祝いメッセージ

- ・高校性向け合同企業説明会
- ・包括連携協定：行方市
- ・ペットボトル水平リサイクル推進：ペットボトルからペットボトルにすれば永遠にできる。技術的に難しかったができた。スタジアムからでるもの。この教育を学校でも。(画期的な取り組み)
- ・地域の社会課題解決に向けて、人材のローテーションをどんどん続けたい。いろいろな掛け合わせが良い効果を生み出す。
- ・プロクラブが有するアセット資産：クラブアセットの活用、アントラーズは全試合でアンケートを実施している。自治体のアンケートも一緒にとれば回答率多くなるかも。
- ・顧客分析している。→クラブのビジネスノウハウを活用してください。首都圏から来る人について滞在時間、宿泊需要など参考になるのではないか。
- ・スタジアムにあるべき姿：お客様に少し未来を体験してもらいたい。スマートスタジアムのあるべき姿。デジタルチケット（非接触タイプ）はコロナで需要が高まった。これはデータが取れる良いアイテム。
- ・キャッシュレス決済
- ・スタジアムテック：ドコモと組んでハイスペックwifiが入っている。エンターテインメントの実験の場になる
- ・顔認証、チケットレス → 地域の高齢者を守ることでできないか空想を描く
迷子になった人を探す必要がなくなる社会がくるかもしれない。
- ・スタジアムビジネス：指定管理料は直営の頃の3分の1になった。最近では0に。自由にやりたい。もらってるお金を指定管理者が自ら稼ぎ出す。プロチームだからできたかもしれないが。(ノウハウの活用)
- ・年間100試合できるような芝生→キャンプにも利用できるように、使える芝生を研究。傷むから使えないという発想ではない。
- ・新スタジアム構想：スタジアムを核とした街づくり ○○をつくりたいなど
長崎市のジャパネットの取組みは、考えられないものができてきている。
北海道のエスコンフィールドも。少子高齢化やエネルギー等いろんなことを考えていかなければならない
- ・まちづくり会社の設立：社員に言ったのは全国で遊べ。自分が楽しくなければ楽しくさせられない。とんがった街づくりをやっている人に会ってきなさい。全国の街づくり事例をインプットしネットワークを作っている。
香川県三豊市、山形県鶴岡市、富山市東岩瀬など →人を中心としたまちづくりへやはり人を作らないといけない。人がやろうとすることにブレーキがかからない。

- 応援できるまちへ、一人一人が輝く地域へ→行政は風を送る役割。後押しする。
- ・鹿島も何でもできるが一番ではない。あるものを持続させながら楽しめる人をつくる。その人をどんどん排出していく。
 - ・大規模なまちづくりプロジェクトを：
地域を豊かにするために→プロスポーツを資源として有効に使いきる。
地域で社会実験したい企業はいくつかある。
施設運営にいかにかに挑戦するか。ブランディングをどうつくるかなど研究している

パネルディスカッション

【テーマ】

「一巡した文化芸術を活用したまちづくり～自治体文化行政から魅力的なまちへ」

【コーディネーター】 東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林真理氏

【パネリスト】

- ・ 合同会社 imajimu 代表取締役 今川和佳子氏

「八戸の独自性が生み出してきたもの」

- ・ 拓殖大学商学部教授 松橋崇史氏

「地域活性化におけるスポーツの役割とその変化」

- ・ 静岡県沼津市長 頼重秀一氏

「スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出」～誇り高い沼津市を目指して～

- ・ 京都府綾部市長 山崎善也氏

「文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部」～市民一人1文化・1スポーツの推進

【主なディスカッションの内容】

(自己紹介と取組内容)

小林)・コーディネーターは文化政策を研究している。国の文化財保護法とは違う文化の定義であり、地域の文化、地域資源となる文化などの研究である。

- ・自治体史は、歴代市長が誰など書いてあるが、地域の文化について書いてないと思った。人がいるところには文化がある。
- ・文化スポーツはイベントをやることではない。

今川)「八戸の独自性が生み出してきたもの」

- ・「はっち」オープンの3年前から採用され取り組んできた。
- ・逆風が吹いていたが、ハッチができるとこんなに良いということを訴えた。

- ・オープン後、市民の魅力、市政の魅力を伝えた。「楽しいことが起こりそう」と伝えていった。
- ・生活と密着しているものや人の存在を探し求めて取り組んでいる。
- ・昼飲み部がある。地元の食材を使って、集まった人で作る。
- ・横町オンリーユーシアターの開催。横町で思いがけずアートにふれることができるし、遭遇する。
- ・三陸国際芸術祭を開催（八戸から陸前高田までのまちが参加）
日本全国の民俗芸能数：東北6件で約3200ある。（無形民俗文化財）
全国では、指定されているものだけで9000ある。未指定の芸能などは10万をこえるとも言われている。アジアの民族芸能も呼んだりした。
- ・本番だけでなく、稽古や日常を取材して伝えている。
- ・外部から見学などしてもらおう企画も行った。
- ・酒蔵はあまり人こないところだが、アートで入り口をつくり誘導した。

松橋)「地域活性化におけるスポーツの役割とその変化」

- ・大学野球オリジナルフレッシュリーグを開催した。1、2年生の活躍の場をつくるため。
- ・試合以外に体験観光の実施も
- ・大学で企画運営チームをつくって行っている。
- ・jリーグは地域から支援を得る必然性の変化あり。地域活動に積極的なチームが入場者数増加
- ・国体の開催が種目進行を促す。〇〇のまち、ホッケーのまちなど
- ・プロ野球球団等の活動をトリガーに＝北広島市、鹿島市
- ・東京オリンピック、日韓ワールドカップなどもトリガーにした自治体あり。
- ・スポーツの役割と持ちうる価値とは？→経済的価値、関連産業の活性化、ツーリズムの開催、本質的価値
- ・ここの課題に寄り添いみんなで参加する。派等鈴びっくによるスポーツと共生
- ・全力、懸命さを可視化している。失敗や負け、もろさも発信。
- ・スポーツの役割、価値は時代によって変わる。

頼重)「スポーツとアニメを活用したにぎわい創出」

- ・海山川があれば、サイクリング、マリンスポーツができる。低い山だが、トレッキング楽しむことできる。カヤック、カヌーができる川もある。
- ・フェンシングのまち沼津とした。BMX、マウンテンバイクも香稜アリーナ

- ・フェンシングのまちとしたのは、国体の会場が沼津市だった。高校に部活が創設された。このころから盛んになった。地方の拠点を作りたい中央の考えもあり、マッチした。
- ・推進協議会が設立された。 まるまるオープン
- ・69の企業団体関わる。強化合宿の開催、選手によるキャリア教育、PR動画作成、フェンシング選手権大会（全国的な大会）の開催など実施
- ・アスルクラロ沼津（J3リーグ）は、でサッカー教室、物産PRなど地域活動にも多数参加してもらっている。
- ・サイクリストフレンドリーエリア沼津。 コースあり。スポーツツーリズムの一環としても人気あり。
- ・プロスポーツが楽しめるまち沼津として東レアローズとの連携もあり。
- ・香料アリーナでの興業、2000人の観客で経済効果あり。プロスポーツの試合を開催している。
- ・アニメラブライブサンシャイン、聖地としての活用
- ・沼津市が舞台となった経緯は恵まれた自然環境があるから。
- ・行政の役割としては案内など行っている。
- ・聖地巡礼で訪問人数20倍増加、絶景スポットも発信してもらっている。

民間：ラッピングバス タクシー 船

スタンプ、缶バッジ、スタンプラリーで回遊性

各地区、商業施設、店舗でのイベント開催

生誕祭、クリスマスイベント、キャンドルイベント、コラボ商品

行政：広報、SNS発信で応援機運の情勢。沼津の魅力をPR

観光PR大使任命、観光PR道が作成

コラボポスターの作成、夏祭り、フェンシングとのコラボ

クラウドファンディングでオリジナルマンホールつくる。

→定住人口や交流人口の増加につながっている。

山崎)「文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部」~市民一人1文化・1スポーツの推進

- ・市民一人1文化、1スポーツの推進を実施

(文化芸術の例)

- ・合唱のまちとしての取組み：合唱団20を越える。市民合唱祭の開催。市の負担で指導者を派遣している。綾部市合唱連盟に所属
- ・大合唱団綾部の取組みもあり。山の上での平和祈願の時も歌う。市民全員が市の歌を歌えるようにする。「ふるさとはあやべ」という歌を作成。

- ・ 市政50周年では、ふるさと教育に歌を歌える、あやべ太鼓をたたくこともやっている。みんなが歌える、たたけるように。
- ・ 文化協会の高齢化が課題。裾野を広げたい。
- ・ 一流を聴いてもらおう。啓発する。ことで自分の練習に役立ててもらいたい。

(スポーツの例)

- ・ サイクリング、カヌー、トレイルランの大会も開催し500人参加。来年は1,000人を目指す。駐車場など整備の必要性があり。
- ・ 地域のソウルフードを提供することになっているので、地域振興に貢献できるのではないかと考える。

(その他)

- ・ 文化・芸術があって改めて人々は楽しめることに気づいた。
- ・ スポーツ嫌い、文化が苦手に行行政は強制できない。
- ・ 身の回りの生活のことを市民は求めるのでやりにくい面もあるが、やりたい人にはある程度の支援ができるとよい
- ・ 子供の頃の体験、そのモチベーションがUターンにつながる。ふるさと教育は大切にしていきたい。
- ・ 地方創生の鍵にしていきたい。今その町にいる人が、よかったと思える、それを見て訪れる、移住するという流れで考えている。

(今川氏→山崎氏へ)

今川) 地震が合唱に参加する事で発見したことは？

山崎) 井の中の蛙にならないようには、さらに空の青さを知るという続きがある。大会を知ったつもりだったけど、ふるさとを知らなかった。先生と一緒に歌っていた。貴重な経験をさせてもらった。

(松橋氏→頼重氏へ)

松橋) 市長になってから、スポーツ行政がベースになっているが、施設の評価や進める中での難しさなど感じていることは？

頼重) スポーツの魅力、可能性を考えていた。教育委員会意の管轄でスポーツ振興が行っていた。なので体育の部分がメインになり、観光都のマッチング、健康福祉との連携がむずかしいと感じている。そのため市長部局の直轄にした。ウイズ・・・。とんがった政策をしないと目立たない。大都市のような戦略的なことはできない。お金や人が必要。他の地域で取り組んでいないことなどを探してスタートした。フェンシング協会との連携はよかった。東京から近いのもよかった。

市の職員として、協会から派遣してもらって実施できたのが良かった。自分たちができることは何か、周囲の人も考えた。最初の仕掛けが大事である。

なぜフェンシングかということには抵抗があった。野球をとという声もあったが、注目をしてもらうことは市にとって良いこと。他の団体にも影響はしていくという説明をしながら進めた。

(頼重氏→今川氏)

頼重) 中心市街地への箱物について説得困難では。市民へのコミュニケーションの取り方など、ポイントは？

今川) 商店街の人、市役所の悪口が多かったが、それは要望や可能性であると思った。若者、よそのみたいな感じで入っていったが、実験的な事業をもって見せていくということを行っていった。少しずつ反応が変わっていった。逆にPRもしてくれた。実際にやることを可視化する、やる前の段階のものも可視化するのも大事と考える。

(山崎氏→小林氏)

山崎) 文化・スポーツにおいて総論は大事だが、各論となると予算をつけにくいとなる。平和行政でもある。文化・スポーツは今日明日のことではない。霞ヶ関も補助金申請の際、効果やパフォーマンスを求める。何かヒントになることを？

小林) 各地域で違うのでむずかしい。それを掘り起こす作業が大変。KPIの問題色々ある。方針だとぼやっとして見えない。KPIの数値に向けてどのようなことが行われたかが大事だと思う。結果だけではなく。いろいろ相談には乗ります。

(小林→パネリスト全員)

小林) 一番むずかしいこと。今も困難に思うことは？

スポーツもどんどんレベルが高くなっているから団体も変わっていかなければならないという話もあった。これから解決できることなどどうか。

今川) 文化・芸術の分野だけでは解決できないことがある。空手を習い始めたが、スポーツだけでも解決できない。子育ての問題、福祉の問題など色々ある。それらを解決できるような道場をつくりたいという人がいた。その分野だけでも解決できないことは多くてむずかしいので協力、連携があるとよい。自分も他の分野も勉強したり、動員についてのことなど学ぶのが必要と思っている。

松橋) 売り上げを上げる。利益を上げる。そのための活動資源を得ていくことがよいこととしてきているが、お互い様の精神、コミュニティなど、自ら積極的に関わ

る、行政の補助などもどういうふうに関わるのかがむずかしい。経済効果に引張られるのではなく、本質的なものがある。大事で尊いもの。それだけでは持続できないので……。

小林) タイパ、コスパではない領域があることを知ることが大切。

頼重) 文化行政を何もしていないことはないのだが、スポーツが目立つと何もやらないという感覚になる人が出てくる。そういう人がいるのでこれがむずかしい。アニメは日本の文化であるが、高齢者にとっては高いレベルではないという認識の人もいる。観光、経済効果はあるが、関係ない人には、混雑して迷惑という感覚になるという難しい面がある。

小林) 日本人の特性かな。隣の芝は青い。それが良い影響にもなると考えられないようだ。嫉妬かな。

山崎) 数字での説明、数字しか納得しないという中で、地域おこしはこれがあてはまらない。芸人シャンプーハットのとつじが、古民家PRしているが、効果や完成形を聞くが、やっているプロセスが大事だと言われた。あやべやふぁみりあにしたい。さくらだファミリアのように。また、ふるさとが疲弊しないように、酒飲んだり、そのプロセスがエネルギーになる。おいしいもの食べるけど排泄される。食べてるその時を楽しむ。最後は自己実現。特定の分野は寄付などでやっている。税金は使っていない。

(質疑応答)

問) KPIについて。自分の中で重視するものがあったらどうするのか？

答) 多数派工作をする。大義をつくることで理解を得る。

問) 魅力というものが、永続的、再び発生させるにはという観点でどう考えるか？

答) コアになっている人、行える方が楽しむ雰囲気づくり

想いを共有すること、ファンが共に楽しむという光景必要

参加型も一つの方法。自分が当事者意識を持つことが大切、さらに継続性を持つ仕組みができるとよい。

小林) 最後に伝えたいことは？

今川) 人材を育成することも行政の役割として大切ではないか。

松橋) 何かのきっかけで動いて行くものでもある。やることはやっているが。

頼重) 地方の時代になっている。首長、議員の責務は重くなっている。

お役に立てることあれば、言ってください。

山崎) やっている当事者が楽しむこと。それを人に見せること。可能性を求めていくこと。行政としてはお手伝いである。ハード面でも。

【所感】

今回、「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」というテーマで、複数の自治体の取組事例をお聞きすることができ、考える機会となりました。事例の中には、プロスポーツ組織との関わりや、地形を生かしたスポーツへの取組みなどがありましたが、こうした事例は、本市との規模や地形の違いから、完全に真似ていく、取り入れていくことは難しいと感じました。ヒントにしたいのは、アニメの聖地巡礼の事例であります。本市の交流人口増加に向けて、このような取り組みができると良いと感じました。税の使い途として文化、芸術、スポーツによるまちづくりとういものの優先順位は高いものにはなり得ないような気がしますが、人の幸せという観点で税を投入する価値はあると思いました。健康施策、高齢者施策、学校教育、社会教育、図書館運営などこれまで実施してきている様々な施策に対し、文化（アート）・スポーツの考えを取り入れた、新しい相乗効果のある施策ができるような視点も加え、行政のチェックに取り組みたいところです。今回の研修を活かし、市民が幸福感を味わえるような政策ができるよう取り組んでいきたいと思えます。

第85回全国都市問題会議開催要領

1. 主催 全国市長会、(公財)後藤・安田記念東京都市研究所、(公財)日本都市センター
八戸市

協賛 (公財)全国市長会館

2. 開催期日 令和5年10月12日(木)、13日(金)

3. 会場 八戸市公会堂・公会堂文化ホール

4. 議題 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

5. 日程

第1日 10月12日(木)

9:30 開会式

9:50 基調講演 東京藝術大学長、アーティスト 日比野 克彦氏

11:00 主報告 青森県八戸市長 熊谷 雄一氏

12:00 (昼食)

13:10 一般報告 文化事業ディレクター、演出家 吉川 由美氏

14:10 (休憩)

14:30 一般報告 長野県東御市長 花岡 利夫氏

15:30 一般報告 ㈱鹿島アントラーズFC取締役副社長 鈴木 秀樹氏

16:30 (終了)

第2日 10月13日(金)

9:30 パネルディスカッション

[コーディネーター]

東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林 真理氏

[パネリスト]

合同会社imajimu代表取締役 今川 和佳子氏

拓殖大学商学部教授 松橋 崇史氏

静岡県沼津市長 頼重 秀一氏

京都府綾部市長 山崎 善也氏

11:50 閉会式

12:00 閉会後、行政視察【事前申込者のみ(有料)】

